

サイディング販売・施工

### Siding Sales & Construction

サ イディングとは建物の外壁に使用する外装材の一種で、現在日本で最も多く使用されている外壁材です。サイディングの工法は、「サイディングボード」と呼ばれる、金属質や木質の薄い板を並べて外壁に張り付け、パネル間の溝をコーキングで埋めることで防水加工を行います。



### Roof sheet metal Construction



## 屋

根板金とは、文字通り屋根に設置された薄い金属の板のことです。屋根板金には、おもに雨水の侵入を防止する役割や屋根材をつなぎ止める役割があります。屋根の板金は、雨水が入らないように設置されている重要なものです。雨漏りを予防するためには、できるだけ早い段階で劣化症状に気づくことが大切です。

### 建築リフォーム

### Architectural remodeling

お 客様一人ひとりに合わせた理想のプランを細かく設定、お伺いし、幸せが膨らむライフステージをご提案いたします。また、よりリーズナブルにリフォームを行うには劣化・破損部分の早期発見が重要となり、匠隼では住宅の異常を早期発見するため、定期的なメンテナンスを行っております。



### Outer wall painting



## 住

宅の外壁は、日々、雨や風、日差しに晒されていて、年月が経つと共に劣化してしまいます。塗装の劣化は耐熱や保温効果にも影響するため、表面の塗装は定期的にメンテナンスすることが非常に重要です。匠隼では塗装に関する様々なお悩みや不安を解決いたします。

**匠隼** 株式会社 匠隼

京都府京都市伏見区桃山町遠山 70 番地 13 URL : <https://www.takusyun.jp/>

サイディング販売施工 | 屋根板金工事 | 外壁塗装工事 | 足場工事一式 |

シーリング工事 | 屋根瓦葺き工事 | 防水工事一式 | リフォーム工事一式

電話番号 075-601-5350

FAX 番号 075-601-5340

代表者名 朝野 隼人

建設許可番号 京都府知事許可 第 043482 号

「常にチャレンジし続ける人生を歩む  
それが私の、経営者としての矜持です」



(株)匠隼 代表取締役

朝野 隼人



KEY WORD

挑戦

—tyousen—

24歳で独立し、経営者となって6年目になる朝野社長は将来について

『これといった夢はないんです。あまり考えたことがありません』と語る。

なぜなら社長はこれまでの人生、眼の前のことだけを捉えてきたからだ。

達成可能な目標を設定してはクリアし、また新しい目標を据える——

そうした繰り返しの果てに今があり、それは今後も変わらない。

『チャンスを掴むのは簡単で、何より大事なのは、続けること。

私の夢を強いて言うならば、『エンドレスに経営者でいること』です』。

幼いころからその胸にいつも好奇心を抱いていた社長の挑戦は、

これからも無限に続いていくことだろう。

●対談記事は 38・39 頁に掲載

# 匠の業が光る施工で信頼を集め、さらなる境地へ



## Column

スタート当初は、朝野社長と奥様の2人だけだったという『匠隼』。当時社長は24歳。若くして独立だったこともあり、奥様の立場からすると不安も大きかったことだろう。しかし奥様は当時を振り返ってこう語ってくれた。「何とかなるだろ」と思っていました。もし失敗しても、成功したとしても——社長のことを中学時代から知り、誰よりもその性格を理解していた奥様からこそ、社長の選択を全力で応援し、支えてくることができたのである。また奥様は社長についてこうも語っている。「夫は本当に頭が良いと感じます。また素直で、誤りを認め、人に謝り、すぐに修正することができる。あと、人に嫌われても言うべきことは言うところも美点だと思います」。何よりも心強い理解者である奥様の存在があるからこそ、今の社長が、そして『匠隼』があるのだろう。



「力強く勇気を持って前進し続けている朝野社長。その若く張るエネルギーに圧倒されましたよ。これまで好調に推移されているとのことでしたが、これからさらに上を目指せると思います。良き理解者である奥様、頼れるプロフェッショナルなスタッフさん方と共に、隼のようにどこまでも高くへ羽ばたいていってほしいですね。陰ながら応援させていただきます。頑張ってください」  
タレント ラッシャー板前：談



——これまでの歩みや、事業に懸ける熱き思いに迫った。  
**まずは朝野社長の歩みから。**  
ここ、京都市伏見区で生まれました、野球に打ち込みながらやんちゃな青春時代を過ごして、今の建築の仕事に就いたのは18歳のことでした。この仕事を選んだのは、父も今の私と同じく建築会社を営んでいた、ずっとその背中を見てきたからです。それで最初は父の会社に修業に入りました。私と父は性格が似ていて、どちらも直情径行な部分があり、修業時代は何度も衝突していましたね（笑）。しかし今はお互いに自分の会社を経営する中で、ちゃんとビジネスとして助け合える関係になつているんですよ。

——それは良かったです。家業を継ごうといふお考えはなかったのですか。  
なかつたですね。私はハンガリー精神が強いというか、何でも自分でやってみたいと思うタイプだったので。不思議と、何をやっても自分にできないことはないという自信があり、もともと独立したいと考えていたのです。実際に独立したのは24歳の時

こられたように思います。また、もう一つの大きなモチベーションが、好奇心です。昔から、色んなことに対して「やってみた」と好奇心を抱くタイプでした。当社の経営に関しても、まだまだワクワクや冒險心が尽きない日々です。今自分が50歳だったらもう少し慎重になつてていると思いますが、私は現在30歳。この若さのまま、我武者羅に突き進んでいきたいですね。

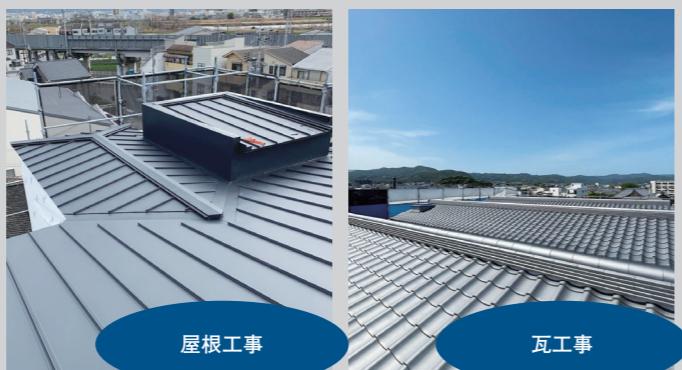
——失敗してもまだやり直せる時期ですか  
——周囲の人々のお陰でここまでこられたと。社長は強い自信をお持ちであると同時に謙虚なお人柄でもあるのですね。事業を推進する大きなモチベーションとなつているのも、やはり「人」ですか。  
ええ。皆のために頑張ろうという気持ちが大きいです。何ごとも一人ではできませんから、自分だけが得するようなことはしません。そこに最近外国人実習生も加わっています。周りの人たちとワインワインになるように心掛けてきたからこそ、ここまで少しずつステップアップして進んでいるんですよ。

から、安心して任せられています。年齢で言うと、私より年上の方もいますが、ほとんどが年下です。ですので当社は、この業界では珍しいほどに若い人材が揃っているんですよ。そこに最近外国人実習生も加わっています。周りの人たちとワインワインになるように心掛けてきたからこそ、ここまで少しずつステップアップして進めていく構えです。

——最後に、今後の展望をお聞かせください。

はい。目下、会社の組織化、仕事のシステム化を進めているところです。現状スタッフの誰かが欠けてしまうと仕事が困難になる状態にありますので、どのような時でも機能する組織をつくりたいのです。今後人を増やしていくにしても、ある程度の組織化は絶対条件。ですので、この先10期目までに組織をどう編成していくかというのが課題になります。スタッフ一人ひとりとしっかりと意見を交わし、全社一丸となつて進めていく構えです。

## 施工事例



# 飛び立つ気鋭の建築会社

## 株式会社 匠隼

京都府京都市伏見区桃山町遠山70番地13

URL : <https://www.takusyun.jp/>

代表取締役 朝野 隼人

サイディング販売施工から屋根・防水・足場・リフォーム工事、外壁塗装まで、丁寧で高品質な建築工事を手掛けている『匠隼』。「人」を大事に、そして感謝する姿勢を備え、若さ溢れるバイタリティで以て突き進む朝野社長が設立した企業だ。常にチャレンジを期し、どこまでの高みに到達するのか注目が集まる社長のもとを、本日はタレントのラッシャー板前氏が訪問。インタビューを行い、これまでの歩みや、事業に懸ける熱き思いに迫った。

——では改めて、御社が手掛けているお仕事をについて詳しく教えてください。  
サイディング販売施工、屋根・防水・足場・リフォーム工事、外壁塗装といった様々な建築工事に対応させていただいております。これだけ広範囲な施工に対応できるのは、信頼できる各工事の有資格者がたくさん揃っているから。今年で独立して6年目になりますが、ここまでやつてきて思うことは、自分は本当に「人」に恵まれているということ。独立した時も、一緒にやつてきました仲間に持ち上げてもらつたような形でしたし、今も多くの人に助けてもらっています。お陰様で、6年目となつた今、ようやく事業が形になつてきたという手応えを感じていますね。これまで様々な人と関わる中で色々なことを吸収し、また自分で調べて考えて努力を続けてきたことが実を結んでいるというか。人間関係もそうで、時には、自分は本当に「人」に恵まれているということ。独立した時も、一緒にやつてきました仲間に持ち上げてもらつたような形でしたし、今も多くの人に助けてもらっています。お陰様で、6年目となつた今、ようやく事業が形になつてきたという手応えを感じていますね。これまで様々な人と関わる中で色々なことを吸収し、また自分で調べて考えて努力を続けてきたことが実を結んでいるというか。人間関係もそうで、時には、自分は本当に「人」に恵まれている

ことです。妻と2人から始め、二人三脚でのスタートでした。人手が足りない時は職人時代からの仲間たちに手伝つてもらい、一方で協力してくれる業者を探しながら進めてきました。